

頭書
大全

世界國畫

亞細亞洲
阿非利加洲

卷之一二

再刻

世界國畫

291.
H826s

29148262



世界國畫序

諺ニ云ク災ハ下ヨリ起ルト抑災害下ヨリ起ル
 中ハ幸福モ亦随テ下ヨリ生ス可シ然ハ則チ天
 下ノ禍福ハ其源蓋シ他ニアラス國民一般ノ知
 愚ニ係ルヲ推シテ知ルベキノミ今爰ニ世界國
 畫ノ著アルモ專ラ兒童婦女子ノ輩ヲシテ世界
 ノ形勢ヲ解セシメ其知識ノ端緒ヲ開キ以テ天
 下幸福ノ基ヲ立ントスルノ微意ノミ書成ルニ
 及ヒ合衆國ニウヨル州ノ士人ガプランク

序

第四大學區
 第十九中學區
 大東小學

明治四年辛未十二月再刻



明治四年辛未十二月再刻

348372

氏ノ文章ヲ翻譯シテ序文ニ代ル_レ左ノ如シ
世ノ文人筆ヲ下シテ人ノ功業ヲ表スルモノ
常ニ其文ノ趣工ヲ感ニシ或ハ經濟家ノ知寸
ヲ譽メ或ハ武將ノ勇膽ヲ稱シ或ハ說客ノ明
辯ヲ贊シ字句秀英文章華麗自カラ人ヲシテ
功名青雲ノ趣ヲ想像セシムルモノ歎カラス
然リト雖_レ事實天下ノ裨益ヲ謀リ世ノ為ニ
功ヲ成スノ大小如何ヲ論スル片ハ誰カ學校
教師ノ右ニ出ルモノアラ_レ何物カ人民教育

ノ重大ナルニ若カシ

我合衆國ノ諸州文明寛大ノ趣旨ニ基キ民間
ニ小學校ノ法ヲ設ケ每户每人其教育ヲ被ラ
サルモノナシ例ヘハ_レヨウルク州ニ於テハ
闔州ヲ九千區ニ分チ每一區必ス一所ノ學校
ヲ開テ教ヲ授ケリ但_レ五十所ノ大學校及ヒ許
多ノ私塾ハ此數ノ外ナリ
此學校ニ出入スル兒童ノ數五十萬人ニ下ラ
ス此外上級ノ學校ニ於テ教ヲ受ル少年モ九

千乃至一萬人ノ數アリコレニ由テ考レハ人間交際ノ大事ニ関シ或ハ益ヲ為シ或ハ害ヲ為シ其禍福ノ源タル可キモノハ教授先生ノ風俗ト其人品ノ高下ニ在ルヲ知ル可シ豈コ
レヲ至重ノ任ト云サル可ケンヤ
近來ニウヨルクニ於テ人物ヲ選舉スルニア
リテ其時入札ヲ投シタルモノ三十余萬人ナ
リシ奉行ナドノ選舉ナラシ蓋シ再後三十年ノ星霜ヲ過
キナハ此人貞ノ大半ハ物故シテ繼テ其身分

ニ代リ其職ヲ奉スル者ハ他ナシ方今當州内
ニ在テ一萬人ノ教師ニ隨從シ初學入門ノ教
ヲ受ル兒童ナラン
我國人衆庶一般相為ニスルノ公法ヲ以テ國
體ヲ成シ其國ニ益アルヲ甚洪大ナリ然ルニ
此國益ヲ為ス所ノ源ハ唯前条ノ一事ノミナ
ラス他ニ又功德ノ大ナルモノアリ其大ナル
者トハ何ソヤ慈母ノ教育即是ナリ政府其體
裁ヲ寛大ニスト雖臣議政其法ヲ巧ニスト雖

臣治國ノ君子經濟ノ為ニ策畧ヲ運ラスモ盡
忠ノ義士報國ノ為ニ身ヲ殉スルモ其國ニ益
スル所ノ實功ヲ論スレハ母ノ子ニ教ルノ功
徳ニ及ハサルヲ遠シ
後世若シ我共和政治ノ人民其先人ノ富強ヲ
承ケテ其名其實ニ耻サルモノアラハ此人物
ハ必ス母ノ賢徳ト知識トニ由テ然ル者ナラ
ン先ツ人ノ心ニ慈悲温和ノ情ヲ起シテ其習
慣ヲ成シ愛孝ノ道ニ先入セシメテ其方向ヲ

正タシ人類ノ職分ヲ知ラシメ萬物ノ靈タル
責ヲ辨シ以テ明德ノ門ニ入ラシムルノ道ハ
唯慈母ノ鞠育教養ニ由テ得ヘキナリ
前条ノ如ク慈母ノ教育ハ其子ノ本心ヲ誘導
シ純精無雜神靈微妙ナルモノト云フ可シ此
教ニ亞テ功ヲ奏スルモノハ學校教師ノ教ナ
リ其功德亦小ナラス今此國ニ於テ學校ノ増
加スルヲ毎年千ヲ以テ計フ此學校ニ在テ教
ヲ授ル者盡ク皆博識ノ士ニシテ腐儒ノ臭ヲ

去リ小説ニ惑ハスレテ真理ノ趣ヲ解シ其道
ヲ尊ヒ其教ヲ好ミ當務ノ職ヲ達シテ節義ヲ
守リ以テ風化ノ徳ヲ盛ニセハ其恩ノ生靈ニ
及ノ所實ニ鴻大無窮ナル可シ

明治二年
乙巳八月

福澤諭吉 譯

九例

一 此書は世間ニ何レノ翻譯書ノ風ニ異なれども
其實ハ皆英吉利亞米利加ニ開版シたり地
理書歴史類ヲ采集メその内ヨリ肝要ノ處ヲ
け通俗ニ譯シたりその私ノ作意ハ毫も
交ヘズ

一 西洋ニハ年号ナシ其國ノ宗旨ノ改リたる年
ヲ元年ニ定メ明治二年ハ彼千八百六十九年
ニ當ル

九例

五

一物の数ハ一十百千万十百万千万一億十億
 百億と十倍つゝ此位より次第に計へ上るを
 一英の一里ハ千七百六十ヤ何と云ふも一ヤ何
 るとは日本此三尺少く余あり故に其一里ハ
 日本乃十四丁四十間余に當る英の地理の里
 法ハ少く長く其一里は二千二十五ヤ何と云ふ
 是當る即ち南北緯度の一度を六十に分ち其
 一分の長さなり

一地名人名等は西洋の横文字を讀て畧その音
 に近き縦文字を當るものとされハ古來翻譯者
 此思々々色々の文字を用ひ同ト土地にて
 二も三も其名何と云ふ似たり又或ハ唐人の翻
 譯書を見て其譯字を真似したるもの有りあれ
 ハ唐此文字の唐音以て西洋此字音に當た
 る也へ唐音に明に此學者達ハ分るべけれ
 とも我々共々少くも分る故に此書中
 ハ勉て日本人に分り易き文字に用ひ申す

せり實ハいろは計り用ても濟しむき答かれ
とも本字を記して股へ假名を附れハ記憶を
ふ便利なり譬へは南亞米利加にべり由
ふまのふ處へ平柳と記しけは勘平の平に
字と揚柳に柳の字なりと憶ふ記しけわふへ
易ハ固より論よりとの遠かり辨輕乃辨の字
は辨慶の辨の字なり論頓の論の字ハ論語の
論此字なり大抵此趣向より譯字を下した
れども多くは譯書中ふ普通なる文字ハ無理

かたりも其より用て傍ふ假名を附しれハ讀
者其本字を當ふせむし假名の方を記憶も
る

一近年までは日本人も英文を讀み得し和蘭の
書のもを翻譯せしゆへ地名も蘭人の唱と
英人の唱と同一しむる由て譯字の相異
ありありのあり譬へハ昔日蘭書の翻譯文中
窩々所徳禮幾と記したるものを今ハ填地利
とひ古の獨逸を今ハ日耳曼とひふが如き

ハ事實トコニ於カテ變カリシアトナリ唯ト近キ來ルハ英書流
 行ク由リ英ノ唱メニ從フルのみ
 一地名人名海河等ノ名ヲ其文字ノ上ニ下ニ「
 の如ク印ヲ附テ區別セリ
 一書中ニはひふへほノ假名文字ニ圓キ濁点ヲ附ケ
 けくはびふへほト記シたる所ありあれいはひ
 ふへほトも何レなり又ばびふへほトも何レなり
 のまへへほトも何レなりふへほトの音ナリ

目録

一の巻

發端

亞細亞洲

同頭書圖入

二の巻

阿非利加洲

同頭書圖入

三の巻

歐羅巴洲

同頭書圖入

四の巻

北亞米利加洲

同頭書圖入

五の巻

南亞米利加洲

同頭書圖入

大洋洲

同頭書圖入

六の巻

地理學の總論

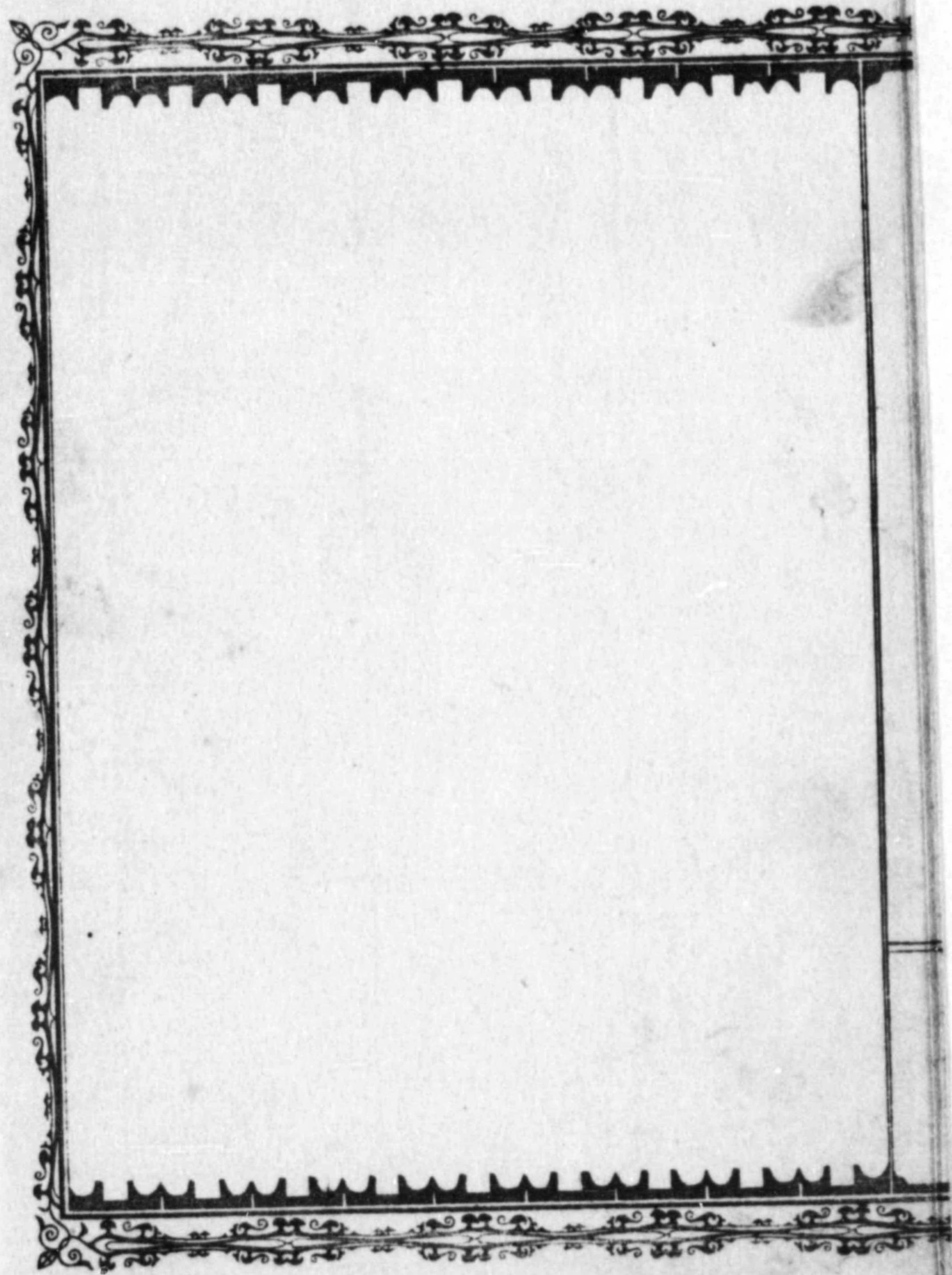
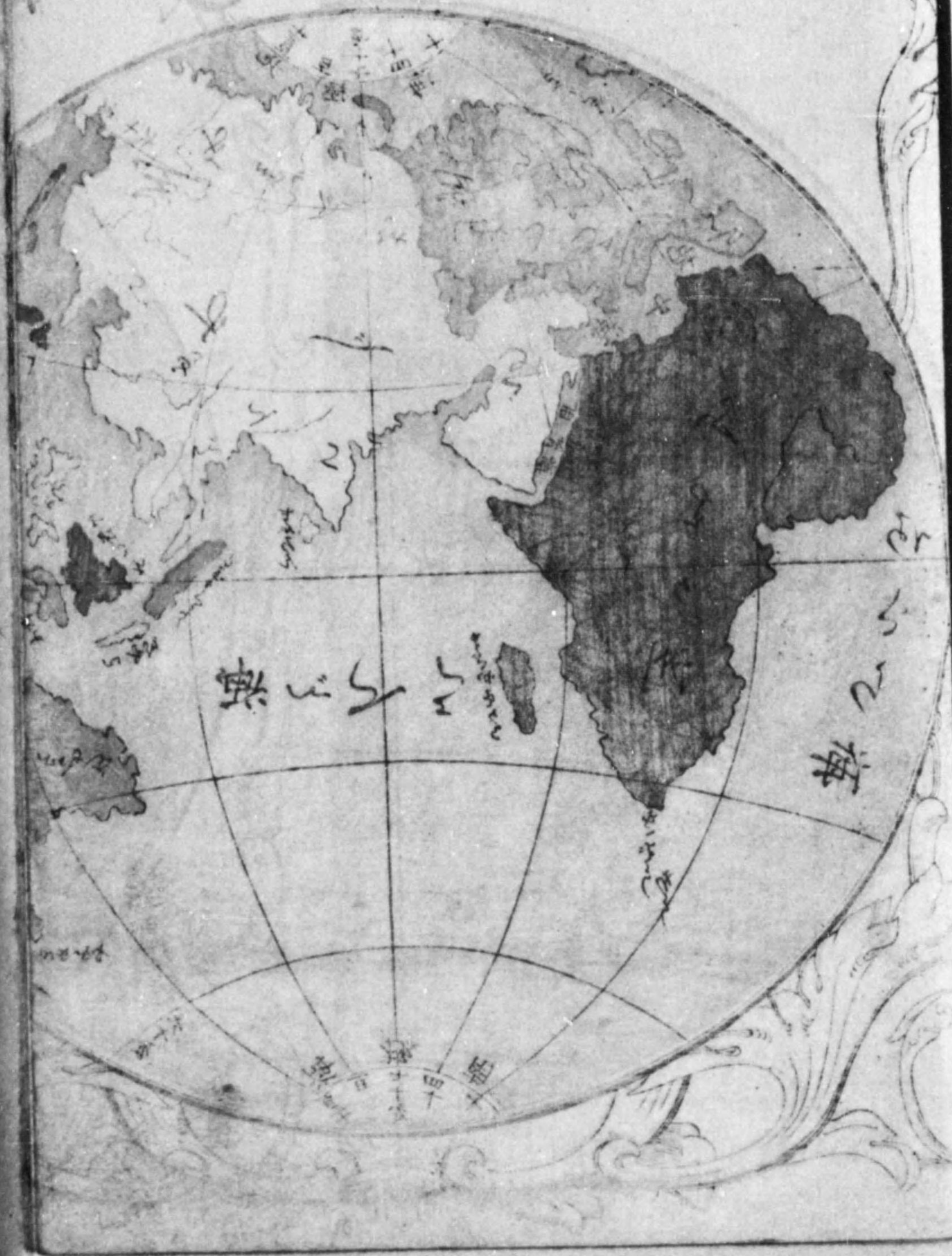
天文の地學

自然の地學

人間の地學

目錄終

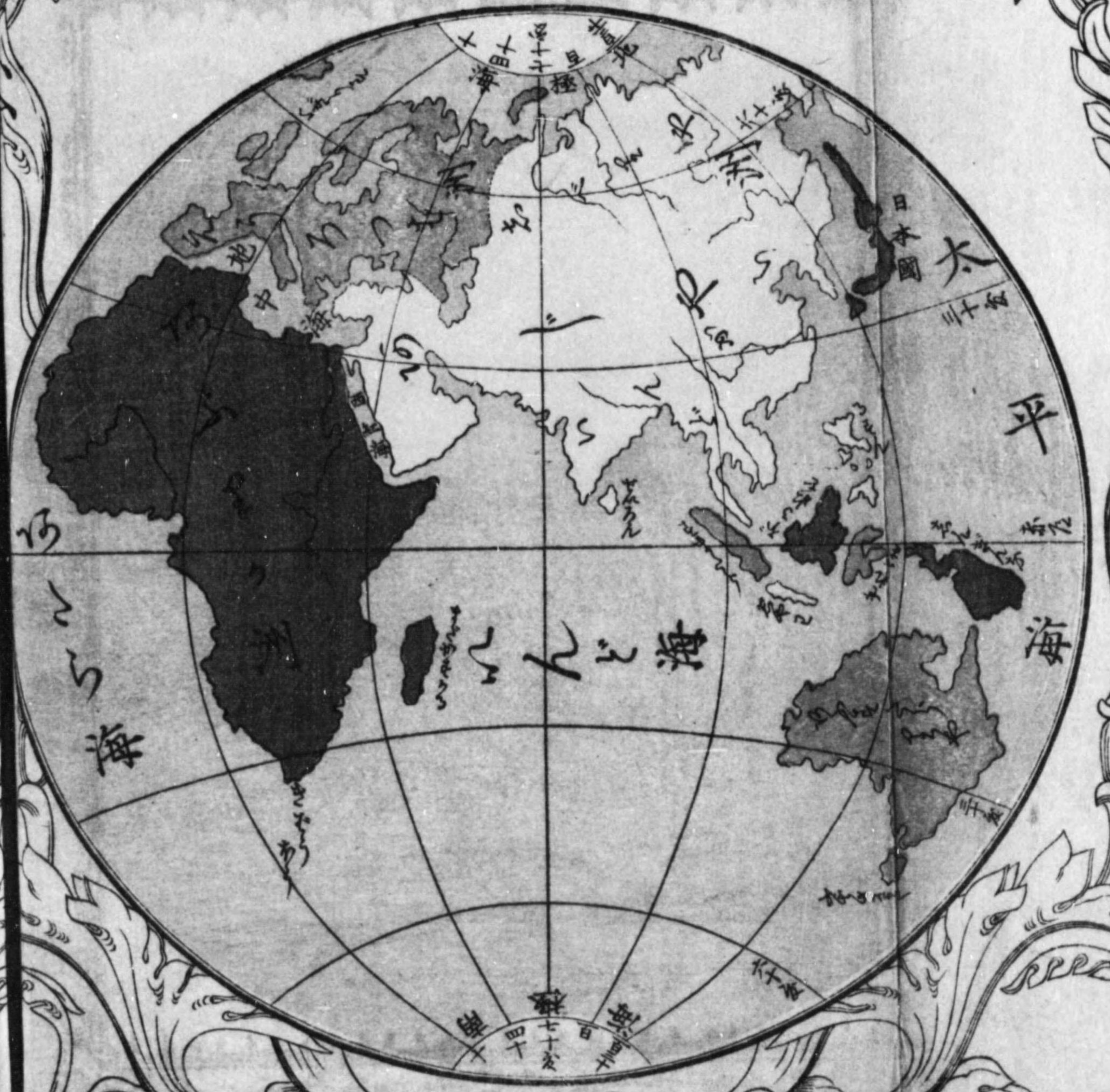
東の洋世界



西の半世の界

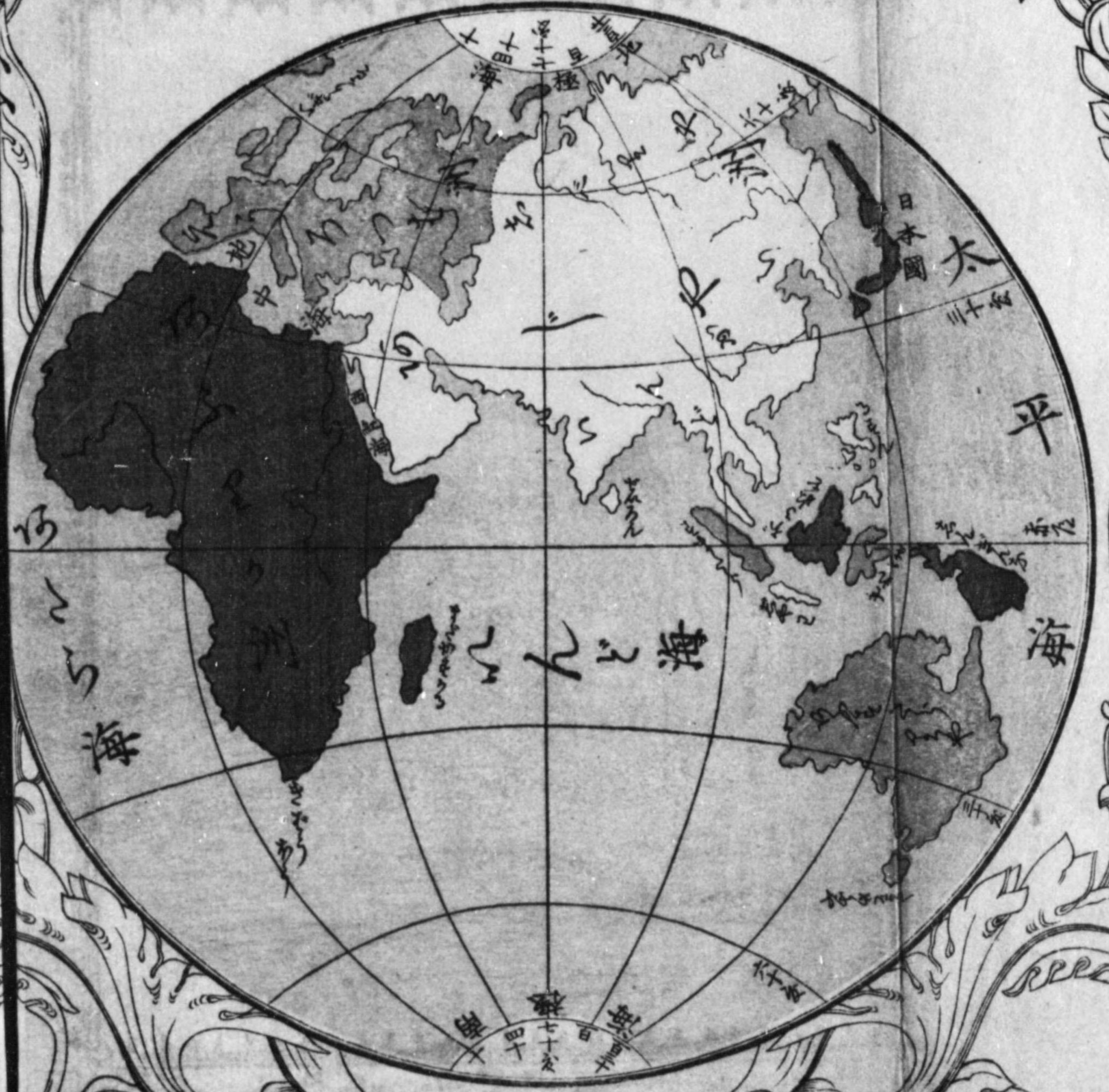


東の半世の界



西の半世の界

東の半世の界



世界人民の事
 世界の廣さハ英吉利
 利の一面四方を一
 坪立九二億の坪
 數りこきを四
 分三分ハ海
 一分ハ陸
 人の住ふ陸の廣
 さハ五千萬坪
 但し英吉利の一里

世界圖畫卷一

世界各國畫
 世界の廣さ
 世界の人口
 世界の名目



八日本の十四町四
 十三間み當る
 世界中の人の數ハ
 九十億お近一國々
 の土風お由て面色
 も同トからを知愚
 と一様あはれ其區
 別を五種お分ち世
 界中お多少の割合
 左の如し

亞細亞河非利加歐
 羅巴北と南の亞宋
 利加と課の紀のそ
 矣大洲大洋海の別
 了了の南の端の

歐羅巴の人種ハ色
 白其數四億二千
 萬人
 亞細亞の人種ハ色
 少しく黄あゝ其數
 四億六千萬人
 亞米利加の山お住
 へる人種ハ色赤
 其數一千萬人
 阿非利加の人種ハ

名稱なるまの北の風
 俗人情も亦変れ
 一かゝるももは様
 人知るもも人の
 利加と課の紀のそ

色黒一其數七千萬
 大洋洲に住へる島
 人ハ茶色あり其數
 四千萬人
 亞細亞洲の事
 亞細亞洲の土地の廣
 さハ千五百五十五
 萬坪人の數六億人
 五大洲の中の一

嘗て得んまて
 水と文と一様
 童子一庭の事
 始より筆と大
 略以志を以て

せんの大洲あり



廣き亞細亞洲の内
 て人の種類も色々
 ありきども蒙古人
 の種として其種族最
 も多し或ハこれを

亞細亞洲

地球の北極より南極
 まで西に先して西の
 へて水と一様
 乃ち海環の端に

亞細亞人種といふ
 氣候も北方志遠里
 やの方ハ甚と寒く
 天竺の南ハ至も
 赤道近く甚だ熱
 禽獸草木えこも
 準して異あり
 ○支那の廣さハ五
 百二十萬坪人の數
 四億都の名を北京



といふ國中の男子
 ハ皆け一坊主あり
 始て見る人ハ甚
 とうしく思て

倭代多紀大平海
 の西北方亞細亞海
 東より我日本始
 西のりて全東
 乃國を以て

支那ハ亞細亞北天
 國人或はわく北
 くみまるとよ印
 魯西亞東のりて
 平海流戸を厚

支那の産物ハ絹布
 木綿瀨戸物其外象
 牙細工等小間物多
 珠茶ハこの國
 の銘産不て毎年外
 國へ積出まこと凡
 一億斤小近一
 歐羅巴亞米利加
 不ハ茶園ありその
 國々の人の用る茶

日本國九洲北前江
 七塔の支那の東
 峯の上海へ海路僅
 二百里蒸氣船は極
 多水は十の噸を費



ハ支那と日本と
 積出ま品方

一は歸るは
 南ニすは香港
 英吉利領北一孤塔
 了毛き新
 高賣銀不且去化

支那ハ舊き國にて
往昔ハ大造なり事
を成したるものを
つゝ北京を南の
方杭州府まで通船
の埒割を長さ三百
里餘あり北の方ハ
八萬里の長城とて
長さ土堤なり其高
さ一丈五尺より三

支那の東洋一に港を
置きし支那の物
活は古陶器の時代
より年以経るに四
五歳仁義を常不以重

大谷小跨り山を越
へ六百里の長さハ
及べり當時ハ固よ
り修覆も亦く崩き
次第なれども珍し
き古跡として西洋の
人ハ折々見物する
一ハ此長城ハ二千
年前秦の始皇帝ガ
胡を防ぐため築

人情厚く風
土高き
中土の文化
後進古風俗
義徳を以て

きしものあり
 今より二千三百年
 前支那に孔子とい
 へる人あり名高き
 學者にて門人も多
 く著作の書も段々
 後の世に傳り支那
 ハ勿論日本にも
 この人のことを聖
 人として尊敬せり



支那の政事の立方

智みくは我より
 人の事を知る
 乃高枕暴君
 使はるるをせむ
 抑へし急改の天罰

道るるは
 天保十二年
 和公起し
 和睦
 償洋銀一百万五

ハ西洋の語はでも
不ちくといへりも
のふで唯上ハ立つ
人の思ふ通ハ事を
おも風ちの由へ國
中の人皆信ハ以ふ
奉公人の根性ハ亦
里帳面前さへ濟り
モ一寸のガモとい
ハ氣ハて眞實ハ國

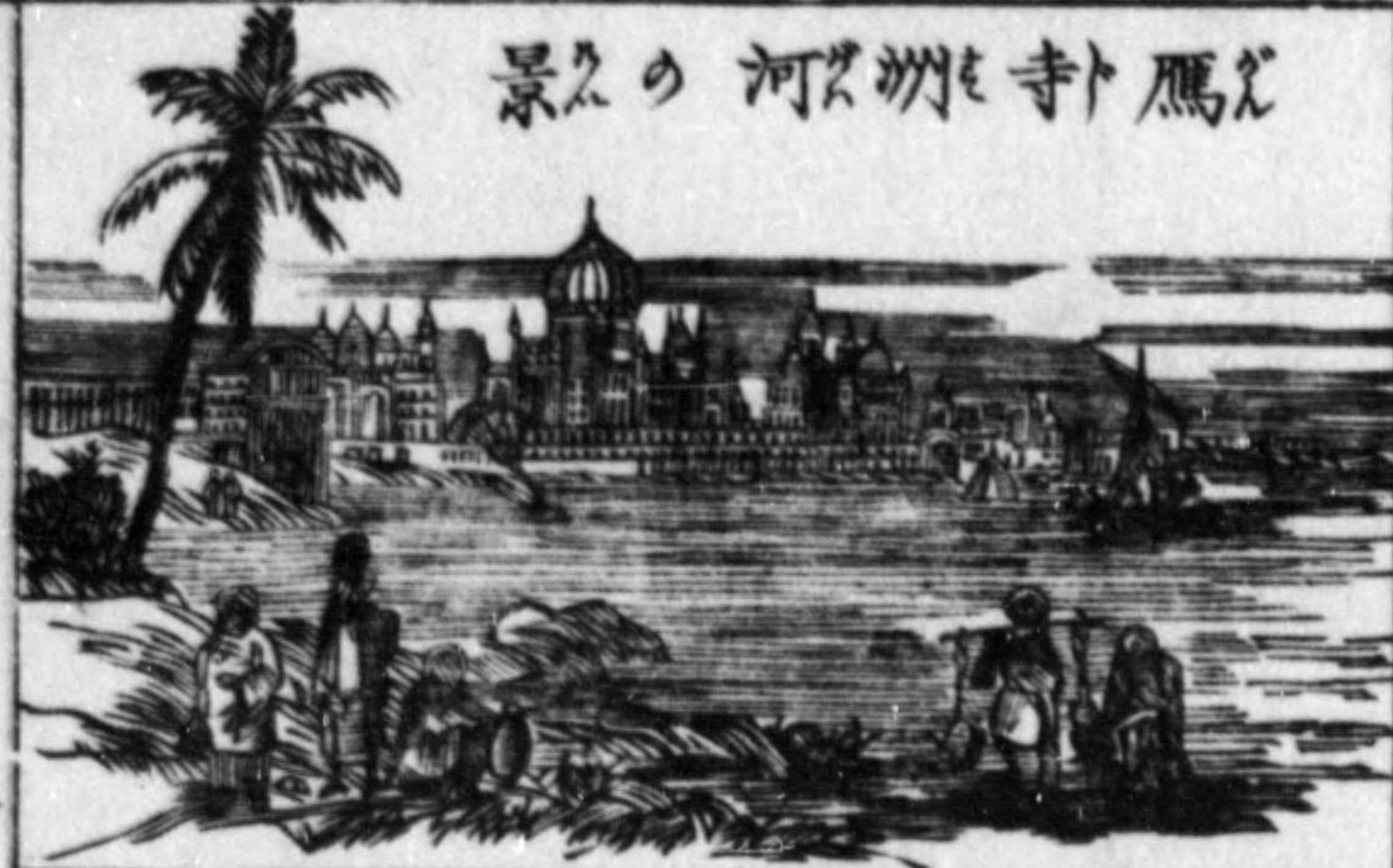
交の港はくしん并さ
有をい思ふる無智ハ
民理ハあまきりり兵
端以交ハ并く弱冬
ハ片を裁ひきり片を合

の為を思ふ者ハく
遂ハ外國の侮を受
るよハハあきたる
あり既ハ天保年中
英吉利ハ打負ハと
きも償金を拂ハ
上ハ香港の嶋を英
吉利ハ與ハ廣東厦
門福州寧波上海五
所の港を無理ハ開

成行
の多様と憐まり
豆細豆ハ南ハ面ハ海
臨ハる。印度地ハ西
東ハ區別ハ西

けららと其後も始
 終外國人のみにつ
 けららと
 ○前印度と後印度
 とハ鷹寺洲といふ
 河を以て界とせし
 此河の畔ハ阿羅波
 婆土といふ釈迦如
 来の聖地也今ハ
 ても毎年諸方より

多クハ後印度東の
 名前印度より名
 高ヤリ國ハ暹羅
 安南尾留諸島其又
 西露國政府を



鷹寺洲の景

参詣の人二十萬人
 の餘りといふ

一玉き水と人
 氣地一々多き
 西洋人の悔我受
 水も汁水も暹
 羅と尾留滿のあひ

後印度のこゝは西
洋人ハびんどを大
んといふ大抵及ら
む英吉利領かま唯
其北の方ハ獨立國
と唱へ英の支配を
受ざりも二三國
はるのモ前印度も
西の方ハ英の支配
下あり

下よりみまらるる長
北滿首花、沈磨
多良嶋とま對し本
西僅う二千餘里間
北海ハ滿首花の

輕骨田奉
行所の景



滿落花の南の端ハ
新賀城といふ小島
は英吉利領の港
かて諸國の船の立

漸たと存せし業ま乃
船の往来ハ賑々
漸たハ北島を以て印
北向し雜種ノ入海
深くハ免ハ不果ノ河

寄る所あり
後印度の南の端に
西論といふ島は
同しく英領して
これ港なり此嶋は
釋迦誕生の地あり
といふ



の東岸に并た都
種骨田英吉利領の
惣奉行印度北方を
交りて軍艦商船
数多あり其細五法といふ

印度の産物ハ材木
米麥砂糖蜀黍麻藍
烟草胡椒阿片貴金
鉄銅珠玉の類且この
地ハ春夏殊冬の
差別なき暖國にて
色々珍らしい菓實
多し獸類ハ獅子
犀象虎又恐ろしい
大蛇蟒など山に

吉利に威勢ありて
さなるよりいふ前は印
度北領地といふ
印度北西の國といふ
河英賀仁波丹玉苗

居る



○邊留社ハ舊國を
もとも元來人氣粗
く政事向暴虐小

在漢丹之端
の尾留知漢丹楮立
國の石河水と風
俗粗き夷狄の西
進邊留社を

て下々の取扱よろ
一からざる中
の力次第小衰へ當
時に至てハ文武
も小列立を千八百
十三年ハ千八百
二十八年ハ政十
西ヤと戦ひ兩度と
敗北して大土
地を失へて近來ハ

世一七所謂古國を
皇紀元以前六百年
白洲五の百六十年
の金を知る河と武
威は西の五の舞

英國と交りて英の
士官を雇ひ武備を
整るよりあり



てるの男女
家内のりうま

一 次々之を以て得奉
可成福之物
可蒙古之改
北千五百年
政府之改

○ 荒火屋ハ大國か
もども砂漠して邊
をあく廣き砂原か
りて且氣候ハ熱く
雨ハ少く住ふ不
一からさる地あり
されども平地ハ
草木よく生長を産
物ハ藥種菓實ハ
の類多し獸類ハ

皇國紀
海
砂漠
荒火屋
南

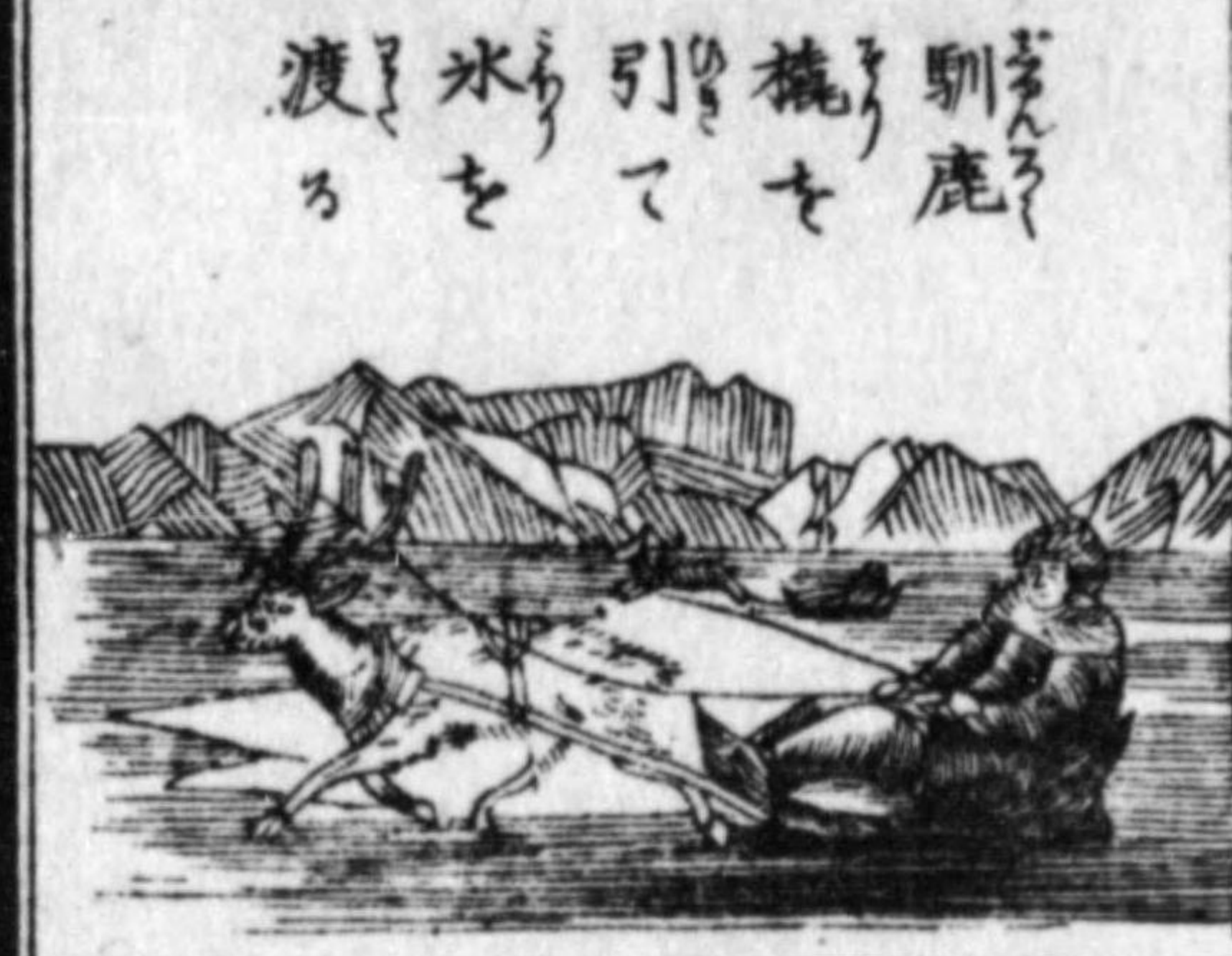
歐羅巴と亞細亞との
二大洲は跨る地
中海と黒海との間
の瀬戸を以て界と
せし故に亞細亞の
方より飛地を亞
細亞土留古といひ
歐羅巴の方より
本領を歐羅巴土留
古といふあり當時

河洲利加歐羅巴
玉塚に中海の海
に小亞細亞
屋兩仁屋羽禮次多
院惣名要細五土留

ハ土留古の政事不
取締めて飛地の領
分ハ度々變動あり
○魯西亞日歐羅巴
と亞細亞と地續不
て兩方小領分り
二大洲の界ハ守良
留山あり志達里屋
小ハ馴鹿といふ鹿

古より土留古に
順地多
志達里屋を亞細亞
に北より西
守良留に林麓

つてて馬の代小用
也又一種の犬の
こも牛馬の如く
車を引くといふ



馴鹿
引て
氷を
渡る

東の倭を亞米利加
近くむよあ山瀬
戸水みを交
那こまひを北を
邊より北極海東西

志達里屋ハ土地廣
けせども人少く三
百萬人不過を土人
ハ獵を渡世とせし
又宇良留山の邊ハ
金銀の山多く魯
西亞の本國より罪
人を移して夥しく
金を掘出るといふ
志達里屋の産物ハ

一万余里南
んハ百里魯西無の候
地の廣大ハ世界美
比類なき
一紀奉行所ハ西

獸皮あり賣買城の
 交易おも皮を以て
 支那の反物瀬戸物
 お易るといふ
 嘉無薩加の港をべ
 以とろ不ろまきと
 いふこの裏より東
 の方魯西亞領の亞
 米利加へ往來の海
 上甚と近し

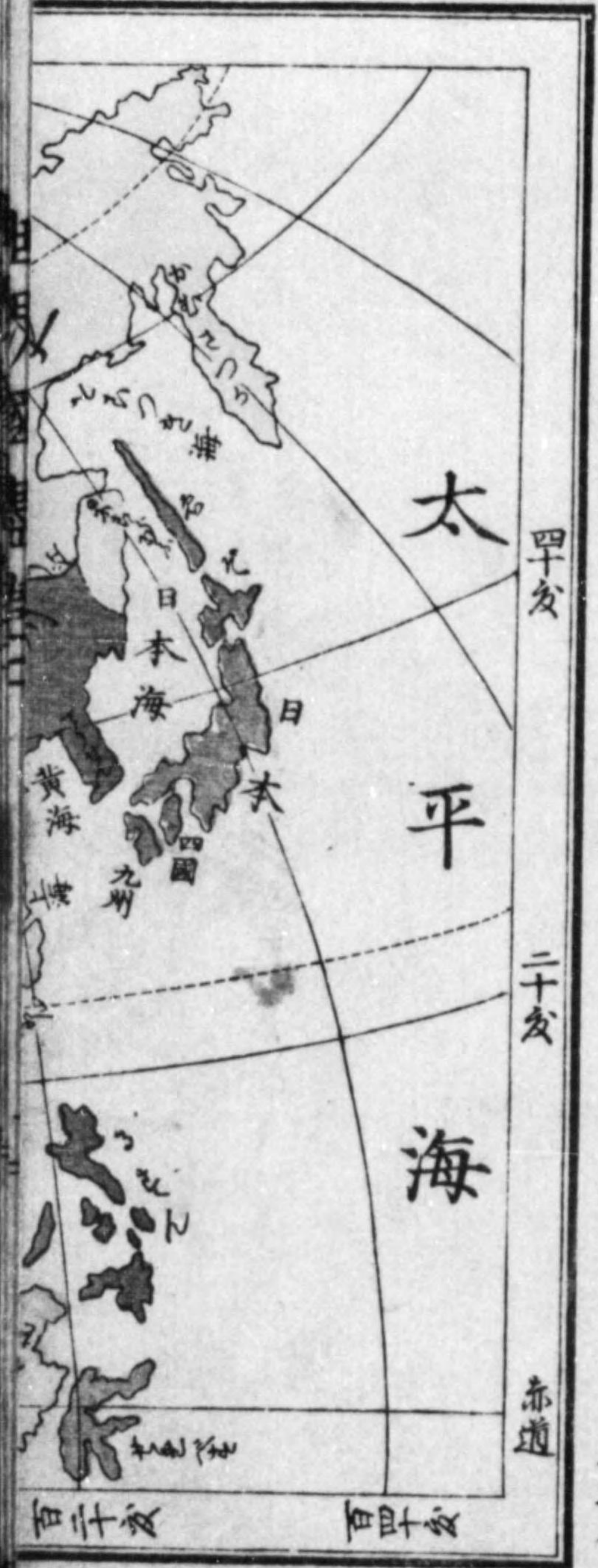
玉筋より戸保苗漢
 東國筋ふ伊苗之次
 南境の喜河之田
 賣買城の隣り
 支那と魯西亞の産

嘉無薩加の景



物互に易る交易
 場末廻り客里於
 河瓦の建し仁古来
 府我日本に極表地
 より煙るる中。隣

第四大學區
第十九中學區
大東小學

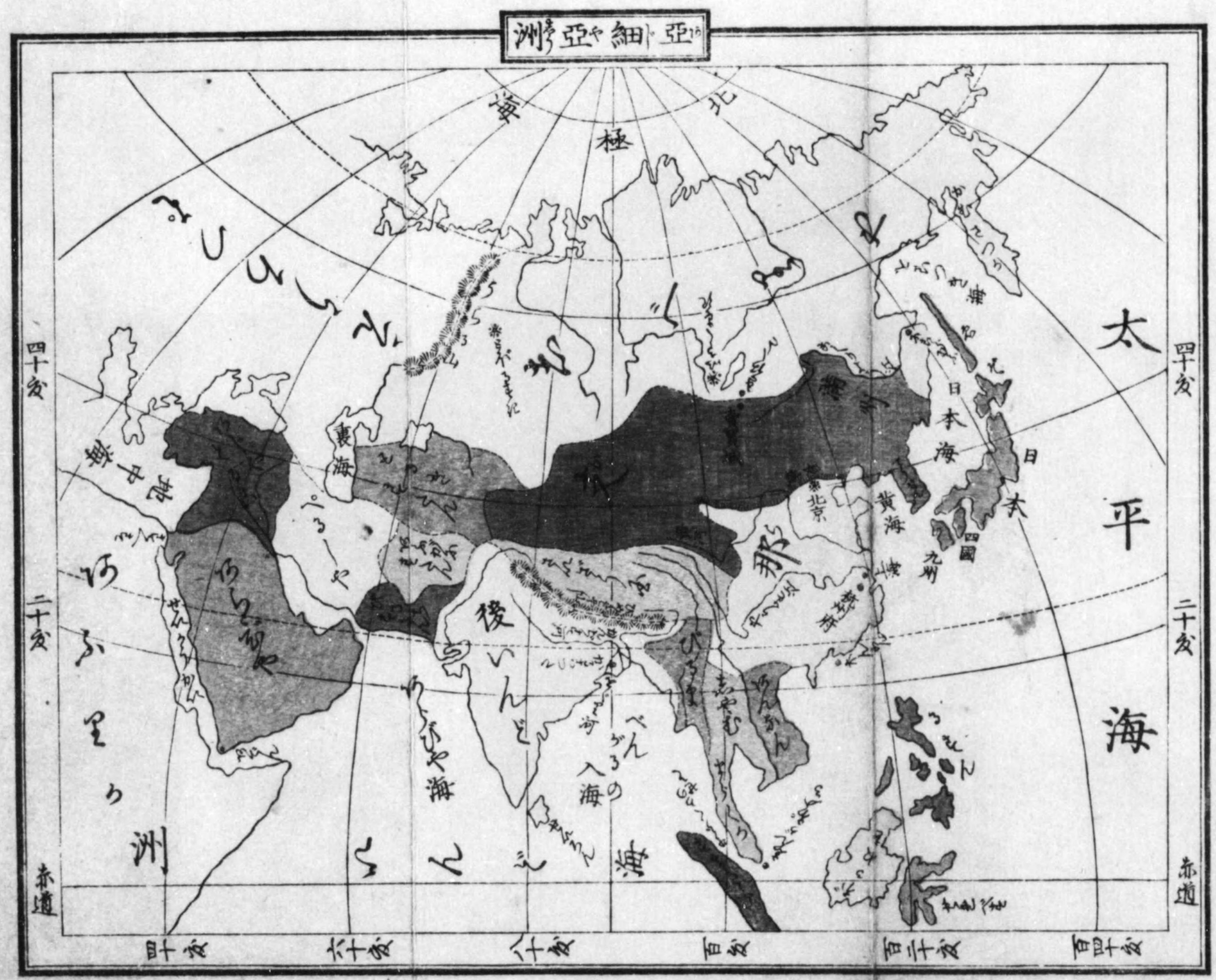


早友
二十友
赤道
百二十友
百四十友

魯西亞の政府ハ昔
地面を廣く
ること小心掛け近
年ハ又滿州の地と
取て専ら黒龍江の
邊小舟を入も軍艦
も始終碇泊一河ハ
ハ小形の蒸氣船を
浮べて運送の便利
を達せり

國東の...
海...
無産加亞細亞北東
け...

第四大學區
 第十九中學區
 大東小學



阿非利加洲の事
 阿非利加洲の廣さ
 八千二百九十四萬
 坪人の數六千一百
 萬北の方小ハ歐羅
 巴人の種もあり其
 餘ハ大抵黒奴にて
 風俗甚だ陋一國々
 小王といひ帝と唱
 へて支配の君あり

世界國盡卷二

阿非利加洲乃廣大
 八女大海の東ニ為南
 北二千三百里西ヨリ
 東ヨリ七百五十里



10
 15
 10
 15

もども強き者の力
づくふて弱き者を
苦しむる風ふれを
争の絶間ありとい



阿非利加ハ四方皆

其後右ニ多餘里
四方能海岸湾曲を
入海稀き不河少
なり内地の様取擇ら
んも船の往來能後

海まで唯亞細亞洲
へ續く處ハ未洲の
地峽として百里をか
その地續けの
この地續ハハ蒸氣
車の路ありて一日
小往來をべし又四
五年前より佛蘭西
人の目論見にて此
地續を掘割て通船

あり海海岸は道
里西洋人の往來
活きせしむの物
地を廣く人少あり
少あり人少あり

の路を開クんとし
て大抵趣向もつき
小舟の通ハ既不出
来方よりこの掘割
跡々成就しあバ歐
羅巴より東洋の印
度支那等へ航海を
る小喜望峰を廻ら
せし地中海と直
直小西紅海へいで

又其の志は
南國は北と東の
第一極り無智
此の二世界あり

余程の近路あるべ
○衛士府都ハ山少
く平地あり内留と
いふ大河有りて國
の中央を流せこの
濕小て田畑も登
且折々河の水溢
其跡ハ却て作物よ
くせ来る中人此國

計りて無窮無海
るるはある未海の西
能衛士府都ハ河水
利加一の二大國その古
る土留吉よる支那

の人大水を以て
豊年の瑞として悦ぶ



市一北を以て今
は多水に獨立國
は東海おらふ年
をなす河内留河の
東は海橋、海を府

この邊ハ不思議
る地ハ四時とも
雨降らば草木を養
ふものハ夜の露の
と時侯ハ熱く砂塵
を吹立人の住居ハ
ハ快からば産物ハ
米麥綿烟草の類ハ
衛士府都ハ古き國

都國の首府あり河
の波岸相ありむまは
や一を以て法羅
云井天たを四百八十
人石匠居る石塔を

小て名所舊跡沢山
 かに宮寺あとの跡
 も大造かるもの多
 一此羅三井天の敷
 も六七十乃其最
 を大なるものハ本
 文おもいへる通
 高さ四百八十尺世
 の言傳ハ三千年以
 前國王の墓碑ハ建



てしものちりし

「支那」乃美至如去球
 と聲「漢」を起る古
 跡とそ「印」人の強台
 如く「内」留如流さる
 乃里人多るし出

「信」聖國「南」河
 孫志江屋「西」海の
 漸戸以「南」東「楚」
 森林國「印」及の海賦左
 「越」えそ南

○信野ハ衛士府都
の支配あり阿弥志
仁屋ハ獨立國ナリ
此邊の河ハひ不モ
たまきといふ獸ハ
モ大さ象の如ク



好ムニ義系と長山丘
「河非利加乃東國物
「長山丘の港」
痛ク麻田槽輕「印度
海ハ西方」

○麻田槽輕ハ文化
年中より歐羅巴の
諸國と條約を結ビ
俄ハ風俗改メ文武
とも小盛あり一ダ
文政十一年其國王
良多馬ある者王妃
小毒害せらるるこ
よも國中大乱の世
とあり一時ハ外國

多の島のよき人氏四
百七十萬あり西洋人
とは其の音奏
第一の船あり一國
の昇化ハ近

人をも残らむ追出
したまひ来ハ又々
開國とあり外國の
附合も始り一あき
ども以前は戦れそ
國の威光大お衰へ
一と一全く鎖國の
騷動はくしゆくあ
里國の都を棚奈龍
といふはよう繁花

麻田槽輕乃西南
阿班利加海の陸の
陸西より廻きは森
望峰望をみるまき
西海の風も颯々

ある地おもはらむ



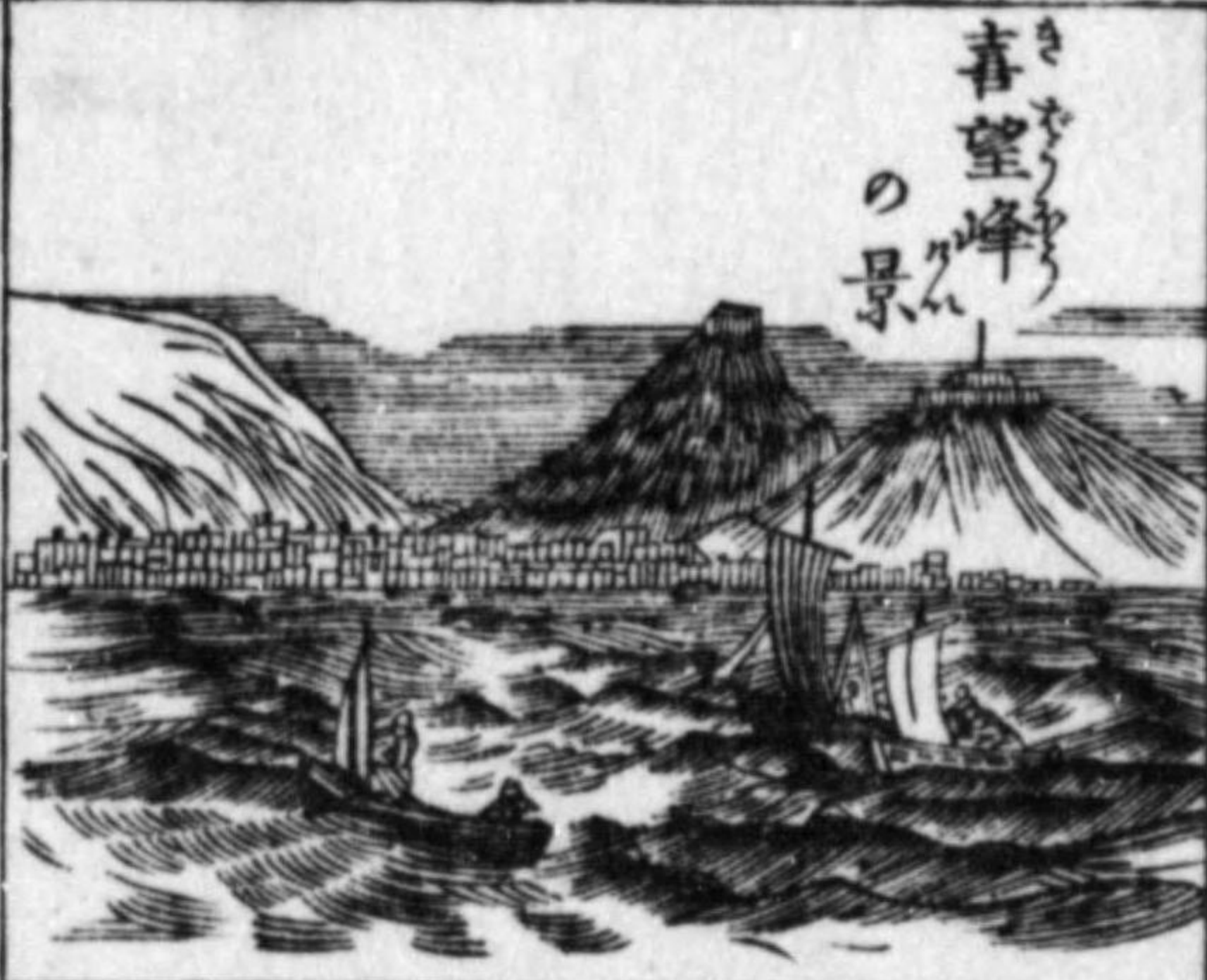
○喜望峯の地ハも

横穀を記奉連をぬ
英吉利欣印度地
才一甲船を長江海
海の河多羅海越
こまきし水陸より

と和蘭の領分あり
一が六十年以前よ
て英吉利の支配と
おもて故に當時も
和蘭人の種多し昔
望峰の港の路をけ
いぶたをんといふ
高賣繁昌一産物も
多し南の方渡天戸
地屋の邊に住居を

松行の樽買ひなり
とる舟子以情紙波
とる舟子以情紙波
とる舟子以情紙波
とる舟子以情紙波
とる舟子以情紙波
とる舟子以情紙波
とる舟子以情紙波
とる舟子以情紙波
とる舟子以情紙波
とる舟子以情紙波

る阿非利加人ハ實
不愚かしく人間
内の下等ありとい
ふ



喜望峰の景

乃西の「費天戸地
屋新部橋上下銀
名よ理部利を國又
そ乃北の二箇國を志
留良禮思「漸拓質

○銀名國ハ二小分
 色南の方を下銀名
 と以ひ北の方を上
 銀名といふ其界小
 おいぜるとて大河
 あり上銀名ハ八
 夏小英吉利和蘭等
 の領分りて土地
 の産物砂金又ハ椰
 子の實の油あどを

宮られ阿球利加
 西國筋乃國々の
 様ハ東の國々異
 しく中よ一區の理
 部利屋ハ阿球利加

積出をよ下銀名
 ハ葡萄酒の領分
 且此邊ハ獅子多
 く折々人を害を恐
 るべきことあり



獅子
 人を
 食ふ

乃國柄々一程無
 共和政人氏ん
 事儀事院た
 事公議一北亞米
 利加々流行の自由

○古来阿非利加ハ
ハリス風俗流行
し人賣買見
ことリスとれを
をいぶといふ
いぶとハ生涯買切
奉公人といふ
とあり亞米利加
どへハ夥しく
人を買込
田畑の

此風俗福年一
きふ来一
乃耀々如
亦もら
中海乃
地

働不用て牛馬同
取扱ふ風習
心ある人ハ
を憐れ
者も亦多
理部利屋國ハ
利加
の申合
國あり
がた
人
賣買

る國
北利加乃馬留馬里
伊年
祿子
一の帝國

大不減トたろよー
○茂祿子の港丹路
留ハ治部良留多雷
の瀬戸不臨と西班
牙國と對岸あり



丹路留の景

新しよ地味犯て
天乃恵ハ濃ク是を
香以故車以香
しそ農公勤ひ台
若と那一東

○阿留世里屋ハ氣
侯穩ホ一て五穀菓
實の登ること茂祿
子ハ劣らぞ其都ハ
海岸より小高き山
の麓小間て風景よ
一四五十年前ハ此
邊ハ海賊多く諸國
の船を悩せり我文
化年中亞米利加の

隣なる阿留世里屋
人口二百五十萬
以去るは四十餘
佛茶東西國より攻
片し是を不羈獨立

軍艦これがたゆみ
阿留世里屋を攻て
六萬のららふの償
を取ることあり



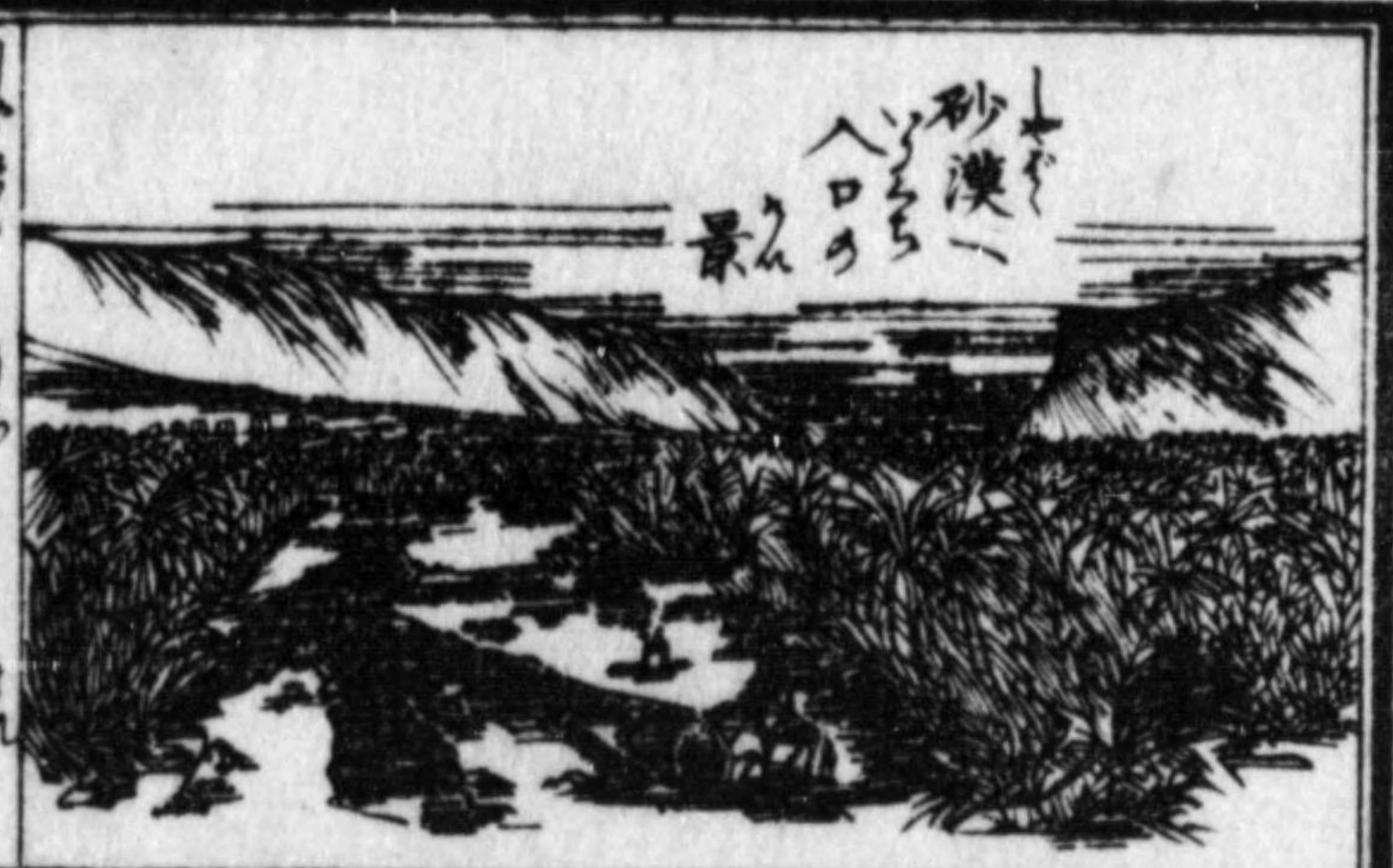
のふ人絶えし佛
の孝をまじりて
行はるる人
威を絶く兵士軍
艦数を日く二百餘

○戸仁須戸里坪等
の諸國の内にて戸
仁須の人ハ多く農
業を勤め且此國ハ
ハ五穀綿畑草等の
外ハ銀銅鉛水銀の
産物ハ里坪掘り
人ハ専ら常食ハセ
て都て荒火屋遣
り阿非利加の海岸

美以人氏を佛業
西帝の極風が佛
了魔くまの衆の皇
う水皇と東御寺府
都の間をなす

ハ東の多き鬼あり
○阿非利加の内地
ハ西洋人の詮索ハ
もいさど委しく分
らむ越尾比屋あど
の人ハ最も教ふく
しく人情甚だ粗
おやむくといふ鬼
の黒奴ハ人を殺て
肉を喰ふ

玉を戸仁次戸里
堀馬苗加國中其
少邊山國大略
同夷林人表ハ
去留古多陸了名あ



砂漠の内ハ補ハ
ハ山ハ草の茂てた

わく、實多紀支記を
ホ子阿非利加の内地
の程ハ知れ多らん大
染うなる國境南有
越尾比屋を

るおを譬へハ大海
小嶋の如く如く往
来の人ハこの草を
駱駝の飼料とする
あり但し人の食物
ハ數箇月の用意
かるるらる又砂
漠ハ雨降らざ
て水不自由あり
十日路も行て始て

「家内小」
「作」の系と小
を世界中心の大砂
漠東西一万余里
南北四百里樹

湧泉の出逢ふ位の
ことあるハ飲水の
貯もたてて叶ふぬ
ことあり項を我文
化二年は當り阿非
利加の人二千駱
駝千八百疋を引
砂漠を渡り小町
しも水の何る處ハ
行逢せよして残ら

「貯」も「見」ぬ砂
の海、小は「來」の
人、駱駝の「背」に
「氏」ハ「數」月の
貯へて北や南

を渴死たること
しや

○麻寺ハ小島也
ども山水の風景甚
だより産物ハ葡萄
酒あり氣候ハ春夏
秋各大抵同様ホテ
病人あとの養生所
小宜一知奈利屋ハ
西班牙の領分あり

渡りて砂漠雜
其り平水の海
出せり麻寺嶋より
支配を葡萄牙葡
葡の業漁のり心也



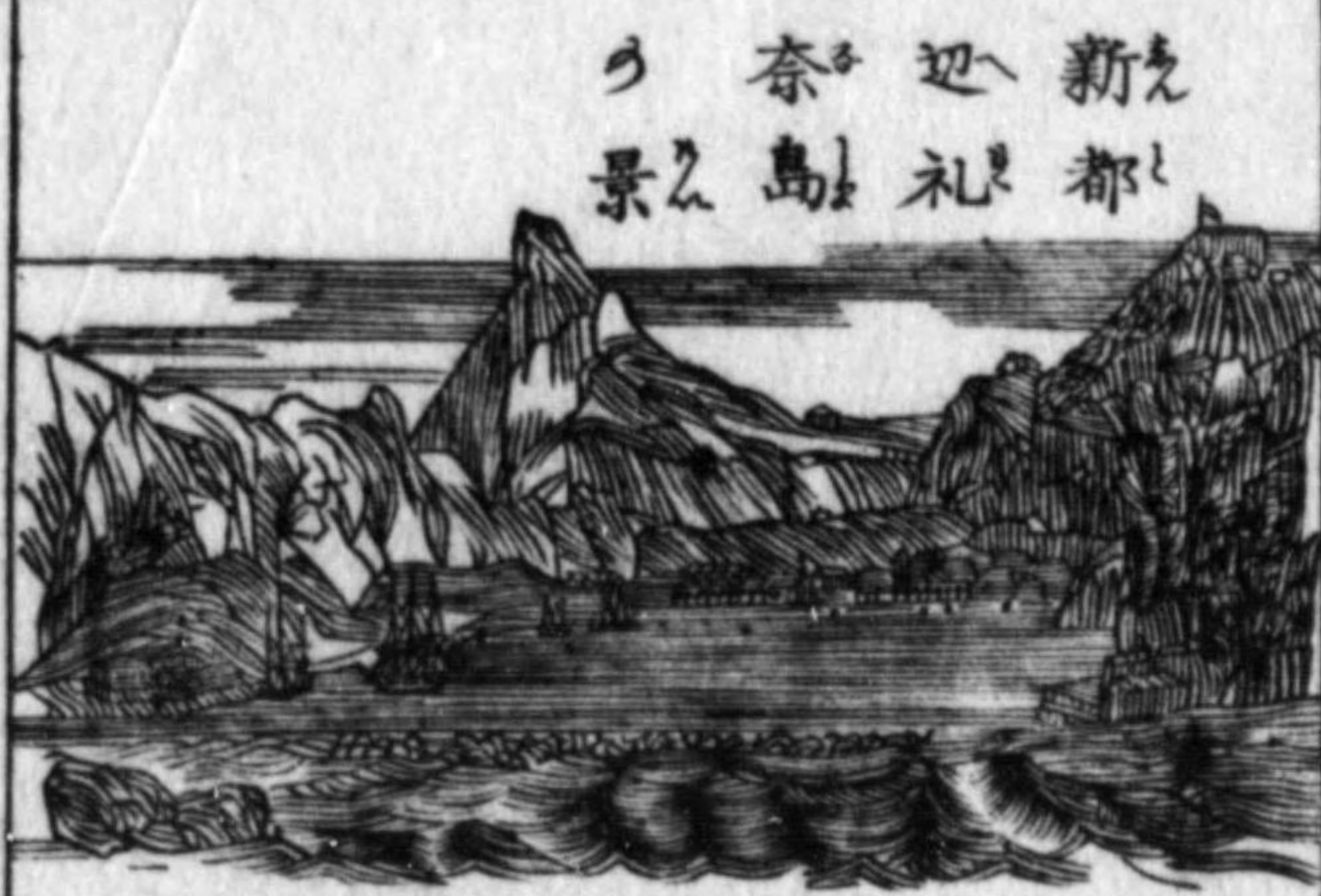
その模様ハ大抵麻
寺小同ト

と名音可記出地ハ
とん地乃名小同
麻寺漁船之人と
人麻寺ノ隣カ
カナ利屋ハ知事

○新都邊禮奈ハ英
 吉利の領分あり千
 八百十五年即ち我
 文化十二年の頃佛
 蘭西帝弟一世ハ不
 礼をん和阿戸留樓
 といふ處ハをわて
 英吉利の將軍ある
 てんとんと戦ふて
 敗北し此島ハ流さ

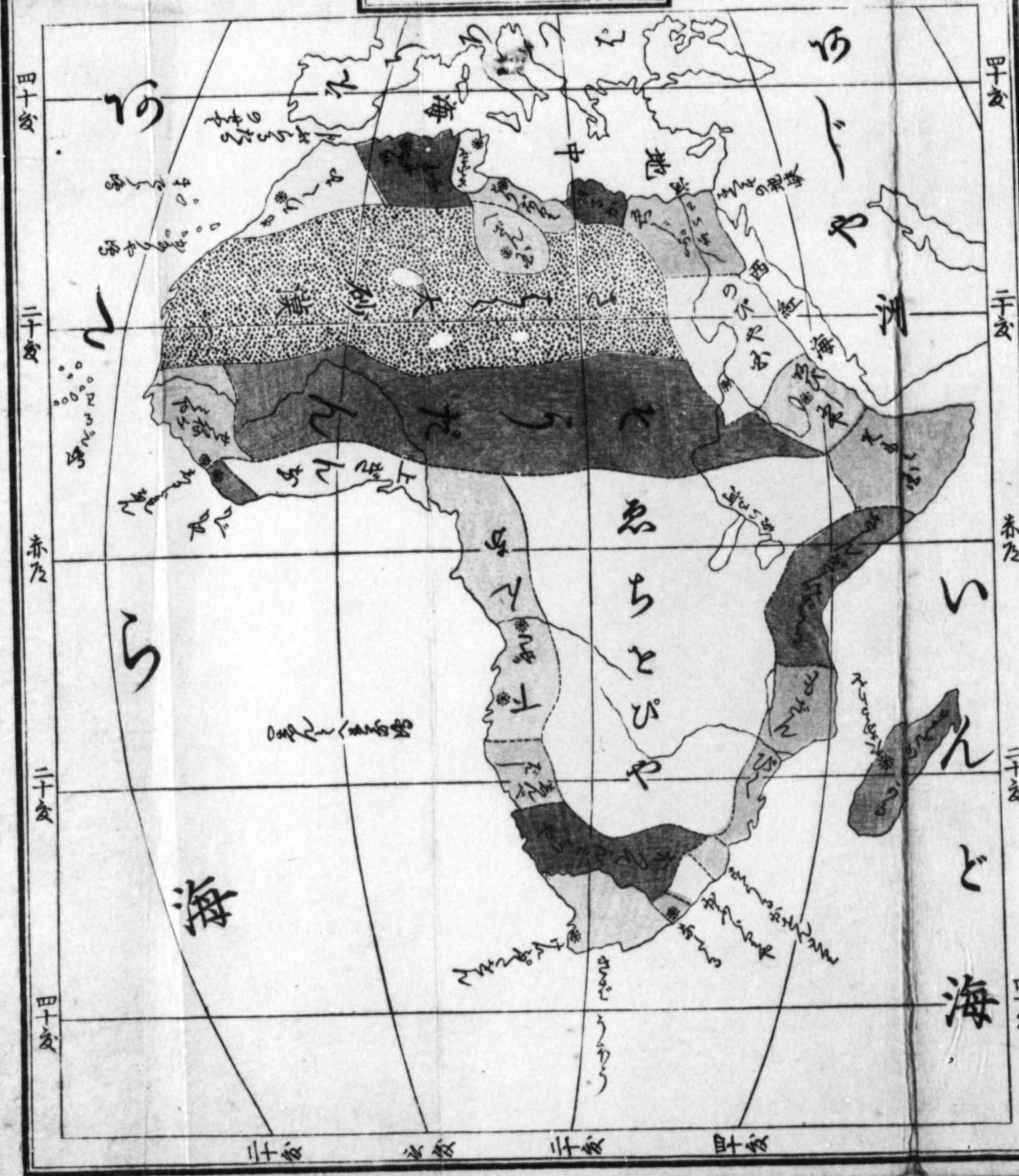
の里まの北場一峰
 多分ハ敷四時
 春の色少島の
 の名ん少の
 西の廻ハ輪留

きて生涯を終まり
 こまゆを嶋の評判
 世ハ知りたる



田嶋「福留」南
 淋「礼」新都邊
 奈嶋「名」所
 多分「佛」茶西
 多分「帝」保禮恩和

阿非利加洲



一
 改
 本
 蘭
 西
 人
 の
 心
 願
 小
 由
 大
 造
 家
 の
 禮
 武
 小
 佛
 八
 百
 四
 十
 年
 佛
 罪
 人
 の
 取
 扱
 あ
 り
 命
 を
 終
 る
 死
 後
 一
 十
 一
 年
 五
 月
 五
 日
 小
 流
 さ
 れ
 千
 八
 百
 二
 十
 一
 年
 五
 月
 五
 日
 小
 島
 へ
 改
 華
 せ
 せ
 へ

阿
 戶
 留
 樓
 の
 幾
 小
 運
 弁
 所
 へ
 お
 入
 り
 流
 罪
 人
 の
 取
 扱
 あ
 り
 命
 を
 終
 る
 死
 後
 一
 十
 一
 年
 五
 月
 五
 日
 小
 島
 へ
 改
 華
 せ
 せ
 へ

第四大學區
第十九中學區
大東小學

甲				
乙				
丙				
丁				
戊				
己				
庚				
辛				
壬				
癸				

大東山

大東山
第十卷
卷之六



頭書
大全

世界國盡

亞細亞洲
阿非利加洲

卷之一二

再刻

291.

H826s

022048-001-6

291-H826s

世界国尽(頭書大全)

福沢 諭吉 / 訳

M4

ADA-0388

